

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600170		
法人名	社会福祉法人 健仁会		
事業所名	グループホーム咲花		
所在地	山口県山陽小野田市大字厚狭字埴生田503番1		
自己評価作成日	平成30年3月16日	評価結果市町受理日	平成30年9月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく 共に楽しく地域の中でいつまでも自分らしく生活していける…」の理念の基に、その方らしい生活が送れるように支援しています。施設周辺には、スーパーや飲食店、地元の商店街や神社、また桜並木が美しい散歩コースがあり、自然に囲まれた活気のある生活環境で過ごしておられます。咲花は、複合型施設の4階にあり、建物内に併設のクリニックがあり訪問診療や訪問看護、療法士による健康体操や通院での物理療法、歯科医師による口腔ケアを受けることができ利用者様の健康維持に努め機能低下予防に力をいれています。フクシア紫苑全体の企画行事の春祭り・夏祭り・文化祭では、書道・生け花・短歌を披露されており、毎日練習されている歌は、咲花エンジェルズとして出演されるなど、利用者様の活躍の場がたくさんあり楽しみごとの多いグループホームです。地域との繋がりも深く、フラダンスやコーラス・腹話術・二胡の演奏会等地域ボランティアの方が来られる機会も多くあります。咲花メールは自治会へ回覧しており、地域社会との交流が継続できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう、地域の一員として、利用者と一緒に地域の皆さんと日常的に交流をされています。事業所だよりを毎月自治会に回覧されたり、今年度からは自治会報が事業所に届けられるようになっていいる他、運営推進会議の中では災害時の連絡網が作成されるなど、地域とのつながりが一層深まっています。職員の提案で、目標に添った記録と簡素化を図った記録の改善をされ、職員は利用者の傍らにいる時間を増やされ、利用者一人ひとりの声やつぶやき等に寄り添われ、思いや意向の把握に努めておられます。一人になりたい人には、一人でいることのできる居場所をつくられたり、歩きたい利用者による「歩こう会」、歌いたい利用者による「歌の会」を発足されて「咲花エンジェルズ」と命名され、家族会や運営推進会議等で発表する機会をつくれるなど、利用者一人ひとりのしたいことや好きな事、できることなどを把握されて、振合いや喜びのある日々を過ごせるように支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時やユニット会議で、理念を皆で唱和し意識づけに努めている。また、職員全員に共有できるように名札の裏やスタッフルームにも掲示し毎日目にふれるようにして日々の支援に活かしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、4つの柱とともに事業所内に掲示している。地域や家族に配布している事業所だよりにも記載し、職員は名札の裏に記載して常に携行している。朝礼や月1回のユニット会議で唱和して確認している。日々のケア場面では4つの柱に添ったケアをしているかを確認して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや納涼祭、商店街のお雛様めぐり等に参加している。施設前に御神輿が来てお参りをさせてもらっている。地域ボランティアの二胡の会の方が、家族会で演奏して下さった。毎月、咲花メールを自治会に回覧してもらっている。	毎月、事業所だよりを自治会に配布しており、今年3月からは自治会報が届いている。利用者は自治会主催の納涼祭や地域の祭り(鴨神社の春祭り、秋祭り、寝太郎祭り)、商店街の催物(お雛様めぐり)に職員と一緒に出かけ、地域の人と交流している。鴨神社の祭りでは神幸時に神輿が拠点施設前に立ち寄り、利用者は外に出て神輿に触ることが年中行事となっている。法人主催の「フクシア文化祭」では、地域の多くの人の参加があり、利用者は華道や書道に取組み、家族と一緒にイベント(高校生のブラスバンド、綿菓子等出店)を楽しみながら交流している。花火大会時には事業所のある4階まで地域の人が上がって来て利用者と一緒に花火の見学をしている。ボランティア(コーラス、二胡の演奏、フォークダンス、フラダンス、絵手紙)や餅つきに協力のある婦人会の人と交流している。散歩時やポストに手紙の投函時には近所の人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、利用者様のコーラスを披露して交流する機会を設けた。また、地域行事や事業所行事で利用者様と関わって頂き、ご理解をいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	勉強会やユニット会議で評価の意義を全員に伝え、自己評価を記入してもらい全員で取り組んでいる。自己評価をすることで1年間の自分を振り返る事ができる。外部評価の結果は回覧し、運営推進会議でもお伝えしている。	管理者は評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類に全職員が記録した後、ユニットリーダーと二人でまとめている。不明な点はユニット会議の中で個別に話し合い理解を深めている。職員は自己評価をととして日々のケアの振り返りや月毎の目標に活かすことができている。外部評価結果を受けて、応急手当研修の個別技術チェックの実施や災害時の地域との協力体制の構築等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況や活動報告、外部評価結果などを資料で報告し意見交換を行っている。地域からの行事のお誘いや、事業所からも防災訓練や行事の呼びかけをし、サービス向上に活かしている。災害時の地域緊急連絡網を作成できた。	会議は2カ月に1回開催している。利用者の状況や活動報告、行事計画、自己評価や外部評価結果の報告、職員研修報告、研究発表報告の後、防災訓練への参加依頼や地域との協力体制の構築に向けた話し合いをしている。年1回交流、親睦を兼ねて、利用者と一緒にの食事会や利用者による「咲花エンジェルス」の歌声を披露している。地域情報の収集や災害時における地域連絡網の作成、災害時には地域の一次避難場所としての提供、自治会報が届くようになるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員の参加があり、利用者様の状況を報告し相談しやすい関係作りができている。市が主催の研修に参加し、情報交換を行っている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や集団指導時に直接出かけて、情報交換したり、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、認知症支援ネットワーク会議を通して情報交換を行い連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束ゼロについて勉強会を行い、意義を理解し尊厳を大切にしたい対応を心掛けている。具体的な事例でスピーチロックについても学び職員同士で注意し合っている。	職員は法人研修や内部研修の中で、マニュアルに添って学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについては、例題を上げて勉強会を行っている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば職員と一緒に出かけたり、散歩をしているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、虐待に当たる行為や弊害について学んでいる。職員同士でも虐待につながる言動がないか常に確認しあっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、必要に応じて支援できるようにしている。勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や契約書に添って丁寧に説明を行い、質問を受けながら疑問点や不安などの相談を受け理解・納得を図り同意を得ている。改定時は事前に文章にてお知らせを行い、口頭での説明を含め十分な理解納得を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望相談窓口を設けており、重要事項説明書に明記、また玄関に掲示している。年に1回のアンケートでご家族から意見をいただき、メールで内容、回答を公表している。面会時にはお茶をお出しし世間話から要望までお話ししやすい雰囲気作りに努め要望が出た際は、連絡帳にて全員に回覧し、管理者はすぐに対応がとれるように会議等で検討している。	苦情相談の受付体制や第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年3回ある家族会時、行事参加時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。年に1回、アンケート(職員の態度、事業所の雰囲気、介護への要望等)を実施し、アンケート結果は事業所だよりで公表している。意見や要望は要望書と連絡帳に記録して職員間で共有している。重症化した際の家族の不安の解消や洗濯物の紛失、混入を解消するために洗濯ネット袋を活用することなどを運営に反映している。個別ケアの要望については、連絡帳に記録してその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議では職員の意見を聞く機会を設けている。利用者様への支援の方法や業務の見直しをしている。他利用者様の視線を気にされる方に考慮してテーブルを1つ増やした。	管理者は、月1回のユニット会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中でいつでも気軽に意見が言えるように雰囲気づくりに努めている。意見や提案は月1回の施設会議時やグループホーム会議時に代表者に伝えて検討している。利用者の居場所づくりのためにテーブルを増やしたり、利用者に寄り添う時間を増やせるよう記録の簡素化と目標に添った介護記録の改善、職員の勤務体制の変更等、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有給休暇もとりやすくしている。資格取得も勧め、応じた報酬もある。請求業務、会計、リネン、月リーダー等役割分担をし、担当となる事で自信や向上心につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月グループホーム勉強会を実施している。職員が講師を努めており、勉強する機会になっている。外部研修にも経験年数に応じて積極的に参加している。実践リーダー研修に2名受講し修了している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告書を提出し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員間で共有している。実践リーダー研修に年間2名が参加している。法人研修は、毎月1回の接遇研修に職員が交代で参加し、年1回の応急手当研修に2名の職員が参加している。内部研修は、年間計画を立てて、毎月、職員が交代で講師となって、認知症、緊急時の対応、感染症、食中毒、非常災害時の対応、身体拘束排除の取組み、重症化、看取りケア、個人情報保護とプライバシー、高齢者虐待防止、成年後見制度等を実施している。応急手当研修は、職員一人ひとりが技術を習得できるように管理者とリーダーが個別指導を行っている。ユニット毎、月目標を決めてケアの向上に取り組んでいる。新人研修は、法人研修終了後、日々の業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修に参加しお互いに情報交換している。法人内でも他事業所との研究発表の場を設け意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の機会を設けている。契約時には、ご本人やご家族から不安に思われる事やご要望をお聞きし、お答え出来るようにしている。その際の情報は職員で回覧し共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには、法人相談員が丁寧に対応している。契約時には重要事項説明書に添って時間をかけて丁寧に説明をしている。質問にはその都度お答えし、入居前に不安が解消出来るように努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の相談員・管理者・ケアマネが現状を把握し、どのような支援が必要なのか見極めている。口腔ケア・リハビリ(物理療法)等、要望があればすぐに利用する事が出来るようにしている。法人内の施設で入居を待たれる方も多く、適切なサービスが受けられるよう支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、洗濯物たたみ・お盆拭き・おしぼり巻き・中庭の花や野菜のお世話等、出来ることを一緒に行っている。言葉の意味や漢字の読み方等、職員が分からない事を教えて下さっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回の家族会を開催しており、会の準備や片付けを一緒に行っている。自施設行事への参加、美容院や外食・外出(自宅)等、様々な場面でご家族の力を借りながら利用者様の生活を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やお祭りに参加した時には、知人や教え子さまと懐かしそうにお話されている。娘様から母の日のプレゼントが届きお礼状を送られた。咲花へご友人や教え子様のご面会があり、お茶をお出ししゆっくりお話が出来るように支援している。	家族の面会や親戚の人、教え子、友人、近所の人、知人の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。地域の祭りや商店街の行事、買物を通して友人や知人との会話を楽しめるように支援している。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や敬老会への参加、葬儀や法事への出席、寺参り、外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは、相性を考慮し席替えも随時行っている。おやつ作りや歌の会の際はユニット間でも利用者様同士の交流がある。リビングや廊下にはソファがあり、気の合う方同士でお話や日向ぼっこをされている。また、居室にコタツをお持ちの方のところでくつろがれている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方には、メッセージ付き思い出アルバムを作成しお渡ししている。また、入院された際にはお見舞いに行っている。亡くなられた方の葬儀にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新の際や、普段何気なく言われたことや、されたことを見逃さないように記録している。食事は利用者様の横に座り、一緒に食べながらお話をして思いを聞ける様な関係作りをしている。また、出勤時は必ずお一人おひとり、丁寧に挨拶をし、表情や態度で把握できるようにしている。	入居前の基本情報を活用している他、日々の関わりの中で、利用者の発した言葉や表情、様子等を「生活、ケアプラン記録」に記録し、思いや意向に関連するところはマーカーを使って一目でわかるようにして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族から情報を得て、全職員で話し合いを重ねて、本人本位の検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は情報提供書や、ご家族のお話の中で、これまでの情報を得ている。入居後は面会時・家族会等でお話を伺い、アセスメント表や個人ノートに追記し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の生活の様子を記録している。心身の変化は、看護欄にかき出し、個人連絡帳でも職員間で共有できるように記録している。その日の様子は口頭での引き継ぎで、しっかり把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3ヵ月に1回見直しを行っている。ご本人、ご家族にご要望をお聴きし課題を含めて話し合いをしている。遠方のご家族には電話や面会時にご要望をお聞きしている。現状の変化があった場合は、随時ケアプランの見直しを行い、看護師のアドバイスも取り入れている。	利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に、月1回、ユニット毎にカンファレンスを開催し、本人、家族の思いや意向、主治医や看護師、歯科医師、リハビリ担当者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは計画に添ったケアになっているかを毎日、一覧表でチェックし、1ヶ月毎評価して課題をまとめ、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、ケース記録に記入している。気づきや工夫は個人連絡帳に記入し、職員間で情報を共有している。ケアプラン更新の際は、担当と計画作成者が中心となりカンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月4回の訪問看護や医師の訪問診療もある。定期的に歯科の往診があり口腔ケアや歯の治療、義歯の調整を行っている。施設全体の春祭りや夏祭り・文化祭があり、歌を披露されたり、生け花や書道を楽しむ事ができる機会がある。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによるコーラスや二胡の演奏会・フラダンス・フォークダンスの方が来られている。事業所の餅つきには地域の方やご家族が手伝いに来て下さっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの、精神科や眼科などご家族の協力のもと受診されている。急変時などの場合は、ご家族と一緒に付き添う支援をしている。	利用者や家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。週1回、訪問診療と訪問看護を受けている。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は希望に応じて往診がある。受診結果は医師からの「健康診断票」で確認して共有し、家族にも毎月送付している。24時間医療連携体制をとり、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、心身の健康状態を報告しその都度相談に応じてもらっている。24時間のオンコール体制で連絡相談ができ、緊急時は医師と連絡を取り適切な対応が出来るようになっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し情報提供に努めている。病院との情報交換を行い早期退院に向けて調整している。法人の地域連携室が主となり、日頃から関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化及び看取りの指針を説明している。終末期になられた時には、希望をお聞きし、医師・看護師・ご家族が何度も話し合いの機会を持ちその都度ご家族の意向を伺い同意書もらっている。	「重度化及び看取りに関する指針」を基に契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、医師から説明を受け、家族の意向を聞いて関係者でその都度話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。看取りを希望の場合は看取りの介護計画書を作成して支援をしている。1年間に4例の看取りケアを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人に応急手当推進委員会があり、研修を行っている。事業所でも、月1回の研修会を行い、応急手当や初期対応の実践的な訓練を繰り返し行っている。事故発生時にはすぐに報告書を提出し会議等で議題に上げ再発防止に努めている。	事例が生じた場合はインシデント、アクシデント報告書に発生状況や対応と経過、今後の対応等を記録し回覧している。ユニット会議で再度、再発防止のための話し合いを行い、介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に努めている。管理者とリーダーは法人の応急手当実技研修(誤嚥、意識不明、ケガ、骨折、救急救命法、AEDの使用法等)を受講し、受講後は内部研修において、講師となって毎月、個々の職員に応急手当実践研修を実施して、全職員が実践力を身に付けるように支援に取り組んでいる。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年に3回夜間を含む火災・地震想定防災訓練を行っている。参加職員が避難ルートや避難方法を考え利用者様全員参加の避難訓練を行っている。地域緊急連絡網を作成し、避難訓練時に連絡網を回した。	拠点施設合同で年3回(内1回は消防署の協力を得ている)、昼夜の火災、地震を想定した通報訓練、避難訓練、消火器の使い方、避難経路の確認、防災機器、設備の点検、確認等を利用者や高校生、地域の人も参加して実施している。運営推進会議を通して、地域との連絡体制や協力体制についての話し合い、地域連絡網(自治会長2名、民生委員2名)をつくり、事業所を災害時の地域の一次避難所として提供することも話し合っているなど、地域との協力体制を築いている。非常用食品は備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を行っている。トイレ介助は声かけに配慮を行い、膝かけで無駄な露出を避けるようにしている。接遇研修では、目線や言葉使いを習っており尊厳を大切にしたい対応を心がけている。	職員は法人の接遇研修や内部研修で学び、利用者に家族のような気持ちで、人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な場合は管理者が指導している。利用者の個人情報の管理に配慮し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の好みや、レクリエーションの参加等日常生活の様々な場面で選択できるような場面作りに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の寄り添いや生活歴から、その方の1日の暮らしの流れや好み・希望等を把握している。その方に合った暮らし方を考え、職員の都合ではなく今までの生活習慣や、その方のペースに合わせ1日を過ごして頂ける様、柔軟に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を一緒に選んだり、外出や行事の際は化粧をして頂いている。移動美容室では、ご本人の希望をお聞きしカット・染め・パーマなどを決めている。馴染みの美容室へ通われている方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と、厨房に食事を取りに行ったり、おかずの取り分けや、下膳・食器洗い・おしぼり巻き等、準備から後片付まで一緒に行っている。畑で出来た野菜と一緒に収穫し、味噌汁に使っている。利用者様のお好きなホットケーキや季節のおやつ(桜餅・おはぎ・柏餅)作りを一緒にしている。	三食とも拠点施設厨房からの配食を利用している。ご飯と汁物は事業所でつくり、差し入れの旬の野菜や事業所の菜園でとれた野菜(じゃが芋、チンゲン菜、ネギ、ちしや、花っこりー)を汁物に入れたり、一品加えるなどしている。利用者の状態に合わせて、食べやすいように食品交換や形態の工夫をして提供している。利用者は厨房まで食事を取りに行き、盛り付けや配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き、おしぼりを巻く、献立を書く、筍の皮むき、蒟の皮剥きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、食材や食器を話題に会話を楽しみながら食事をしている。毎月1日は「赤飯の日」を設けて、厨房からメッセージカードが添えられている。季節に応じたおやつづくり(柏餅、おはぎ、恵方巻)や梅ジュースづくり、季節行事食(おせち料理、敬老の日の祝善、そうめん流し、年越しそば、餅つきなど)、ウッドデッキでビヤガーデン、誕生日には希望の場所で外食など、食事が楽しみなものになるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、管理栄養士が立てた献立を提供している。食事量・水分量は毎日記録をし、栄養状態を把握している。状態に合わせて、おかゆや刻み食、むせ込みのある方には水分にトロミをつけてお出ししている。朝食はパンの習慣がある方には、食パンをお出ししている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入床前は必ず口腔ケアを行い、ポリデントを使用している。週に1回協力歯科医療機関の医師等に口腔ケアをしてもらっておりケアのアドバイスをもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケース記録等で、排泄パターンを把握してなるべくトイレでの排泄が出来る様に努めている。その方の排泄のサインを見逃さず、事前の誘導が出来るようにしている。	ケース記録を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い便秘傾向のある方には、乳製品やオリゴ糖を利用している。引き継ぎで排便状況を把握した上でその方に合った薬で対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は14時～20時の間で、入浴剤や季節に合わせて柚子湯・菖蒲湯で楽しんで入って頂けるように工夫している。その方の状態に合わせて足浴や清拭等を行っている。	入浴は毎日、14時から20時まで可能で、順番や入浴時間、入浴剤の利用、季節の柚子湯、菖蒲湯など利用者の希望や好みに応じて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間を変えたり、家族の協力を得たり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて足浴や清拭、部分浴、シャワー浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下やリビングには、ソファや椅子を置き、天気が良い日には日向ぼっこをしながら休まれている。夜間は、その方に応じて全灯や豆球にしたり、こたつで休まれる方もおられる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、お薬手帳に貼り付け他科受診の際はお渡しし、各ユニット毎にコピーし服薬情報を確認できるようにしている。変更時には、ケース記録の看護欄・個人ノートに記入情報が共有できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業療法士によるリハビリ健康体操や、毎週水曜日のレッドコードを楽しみにして参加されている。利用者様の趣味を生かし毛筆で献立表を書かれたり、歌の会・ぬり絵・読書(新聞)などそれぞれの得意とされること、楽しんで頂ける事を考えて場面作りをしている。	床を掃く、テーブルを拭く、カーテンの開閉、新聞をたたむ、布巾を干す、洗濯物をたたみ自室に収納、花を生ける、花瓶の水を換える、菜園に野菜を植える、野菜を収穫する、雑巾を縫う、プランタンの水やり、利用者の車椅子を押す、食事の準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、毛筆で献立を書く、餅つき、おやつづくり、梅ジュースづくり、赤飯の日、父の日のビール飲酒、新聞や雑誌を読む、テレビやDVD鑑賞、書初め、折り紙、ぬり絵、かるた、漢字パズル、数字並べ、ボール遊び、歌の会、歩こう会、リハビリ体操、レッドコードの利用、餅つき大会、母の日、父の日、七夕、ビヤガーデン、スイカ割り、クリスマス、節分の豆まき、歌謡ショー、花火大会、地域の祭りに参加、神輿の立寄り、フクシア交流会、紫苑祭、特養の生け花クラブに参加、自治会納涼祭、家族会、合唱グループ「咲花エンジェルス」の発表会、ほたる祭り、梅まつり、誕生日の夕食等、一人ひとりの習慣ややりたいことなどに合わせて、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、利用者が喜びや張り合いを持って暮らせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日には利用者様の希望に添って外出し、お好みの食事でお祝いをしている。地元のご友人に会いたいと希望があればご家族の協力して頂き、会いに行かれている。地域の方から納涼祭や、お雛様めぐりの案内があり戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散歩やウッドデッキでの外気浴、季節の花見(蛸梅、梅、桜、紅葉等)、ドライブ(花の海)、初詣、地域の行事(春祭り、秋祭り、雛祭り、ほたる祭り、納涼祭、寝太郎祭り)、ビヤガーデン、歌謡ショー、誕生日の夕食、手紙をポストに投函、家族の協力を得て美容院の利用や墓参り、法事や葬儀への出席等、利用者の希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事でお土産を買われたり、施設売店で買い物やされ、ご自分で支払が出来る支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日に、お花をもらった時の写真をハガキにし、お礼の手紙を書いて頂いた。ご希望があれば、ご家族と電話でお話をされる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、明るく季節感のある置物や生花等で迎えられるように心掛けている。気候に合わせて空調管理を行い日よけをし、不快のない生活空間を作っている。掃除や換気も毎日行い、トイレの臭いや汚れは放置されないようにしている。	拠点施設の4階に位置する事業所は窓からの展望が四方に開け、四季の里山や畑、街の建物、新幹線等の風景が見える。ユニット間にある広いウッドデッキの大きな窓からは明るい日差しとさわやかな風が入り、プランタンの季節の花とともに季節を感じることができる。外部廊下を利用した菜園には利用者と一緒に季節の野菜を植えて、成長や収穫を楽しむにしている様子が見える。対面式キッチンに接するリビングは広く、季節の花を飾り、大きな机やソファ、テレビをゆったりと配置している。利用者は四方の景色が見えるように置いてある窓側の椅子や、廊下に置いた籐椅子、ソファ、テレビの前のソファなど、思い思いの場所でくつろいでいる。温度や湿度、換気、清潔に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のデッキにはゆったり座れる椅子とパラソルがあり、気の合った利用者様同士の憩いの場になっている。廊下にはソファや椅子があり、独りになれる空間も設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていたコタツやテレビ・机・椅子等を持って来て頂いたり、趣味の水墨画や絵画や、家族とのスナップ写真を飾られている方もおられる。歌の好きな方はCDカセットを持って来られ居室でゆっくり楽しまれている。	ベッド、布団、箆笥、衣装ケース、テレビ、こたつ、机、椅子、ソファ、鏡台、時計、ぬいぐるみ、クッション、自作の屏風、雑誌、家計簿、家族写真、メモ帳、整容道具など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや掛け軸、自作品のぬり絵、家族写真等を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで廊下やトイレには握りやすい高さに手すりがあり、利用者様が安全に過ごせるように配慮してある。トイレの表示は高さや読み方を工夫して分かりやすくしており、その方の能力に合わせて使用が出来るようにしてある。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム咲花

作成日： 平成 30 年 8 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	職員全員が急変時の初期対応や応急手当の知識をもち実践できるようにする。	毎月の法人や内部研修にて「応急手当研修」に参加し急変時に全員が実践対応出来るようにする。研修参加者は被らないようにチェックしておき、全員が同じレベルになるように取り組んでいく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。